

「タイに温泉ブーム到来 ～望まれる日本の協力とは」

株式会社サンヨーインターナショナル
代表取締役 土橋 告

◆日タイ間双方向による温泉活用法を考える

日本：インバウンドによる温泉観光地の活性化と、
ウェルネスツーリズムへの進化

タイ：温泉ノウハウと技術移転によるタイの
ウェルネス・メディカルツーリズムの深化

内容

1. タイの温泉状況
2. タイはヘルス・メディカルツーリズムの先進国
3. 日本はタイに協力出来るか
4. タイの温泉ブームは日本に益をもたらすか

タイ王国とは

- 600年に及ぶ交流
- 日米、日中に継ぐ規模の経済交流
- 在留邦人 4.9万人（23年10月時点）
- タイ族を中心とする多民族国家。互いに同化がすすんでいるので区別は意味をなさない。
- 仏教を基本とする国家だが、他宗教に対するリスペクトはする。
- 多文化の受け入れは鷹揚。
- アセアンの中心的な国。
- アジア交通網のハブ。
- 観光先進国。



タイには現在120-130箇所の源泉がある、といわれている。

全て自噴のみ。掘削で温泉を出すことは禁止。

温泉地帯は、タイ北部チェンライ地域からチェンマイ、タイ西部ビルマ側に沿ってマレー半島へと続く。

タイの温泉事情

- ◆タイにはチェンライ、チェンマイ、パイ、
メーホンソン、タク、カンペンペット、カン
チャナブリ、ラチャブリ、ラノーン、パンガー、
クラビと北からマレー半島沿いに温泉地帯があ
る。
- ◆120—130箇所の源泉、全て自然湧出。本格的な
利用されている源泉は少ない、多くは川となっ
て流れて行く。

一般のタイ人の温泉イメージは、足湯と温泉卵

従来、源泉地の地元民が健康・癒しとして伝統的に利用する以外、タイ人には温浴の習慣は無い。



お湯に浸かる習慣はあまりなく、
個室（男女別）での温浴か温泉プール
（男女共有水着着用）になる。



近年、経済成長とともに
タイ人のツーリズムが隆
盛、政府主導のウエルネ
スツーリズムにより温泉
に着目し始める。

チェンマイ郊外 サンカンペーンの温泉公園

常時10ー15mの高さに吹き上げる
温泉噴水は世界的にも珍しい



チェンマイ郊外



ルンア alun 温泉



ドイサケット 温泉

3年前、サンカンペーンに
「Onsen」という名の日本型
男女別日帰り温泉がオープン



パイ温泉



パーボン温泉

メーホンソン

- ・メーホンソンのプークロン温泉はタイ、ヨーロッパマーケットに大人気
- ・ハイシーズンの週末には3,500人もの人が押し掛ける
- ・プークロンの泥スパプロダクツはOTOP A 5-starにランク、世界的に高い評価



メーホンソンには日本人もコンスタントに来ている。

プークロン温泉



カンナチャブリ

ワット・ワンカナイ温泉



ヒンダッド温泉

ラチャブリ プークルン温泉



ラノーン温泉

タイ最大の温泉町、ラノーンは温泉による町興しを真剣に考え始めている。
その協力をJETRO経由で日本に求めている。

源泉7か所

地域住民は温浴の習慣を持つ。

ラノーン



ラノーン

- ・ タイの温泉町として昔から有名
- ・ 源泉から各ホテルに温泉が引かれている。
- ・ 客室、バスルームのお湯も温泉を利用しているホテルも有。







ガオ国立公園内の露天風呂

大小様々の湯船がジャングルの中に点在。
脇を流れる清流で火照った身体を冷やすと、
魚達が寄ってきて天然のフィッシュスパ。



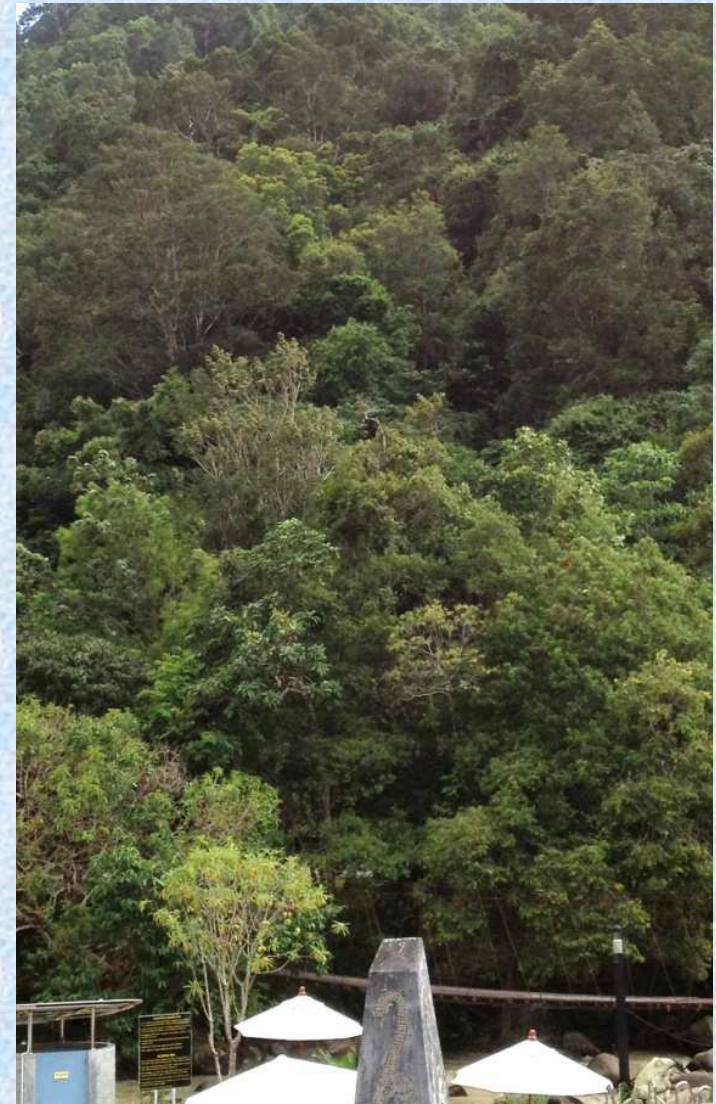


ラノーンは温泉以外の観光資源も豊富

各所に見ごたえのある滝も多くガオ滝は恐らくタイで落差一番と思われる。



町の南には大マングローブ
地帯が広がり、ユネスコ生
物圏保護区に指定されてい
る。鬱蒼たる熱帯雨林が町
と接している。





ラマ5世のパレス
チノポートギーの古い街
並みの再評価で、洒落た
ショップやブティックホ
テルに変身



Kho Phayam

既に多くのリゾートがあるが、市内に泊って日帰りコースもある。

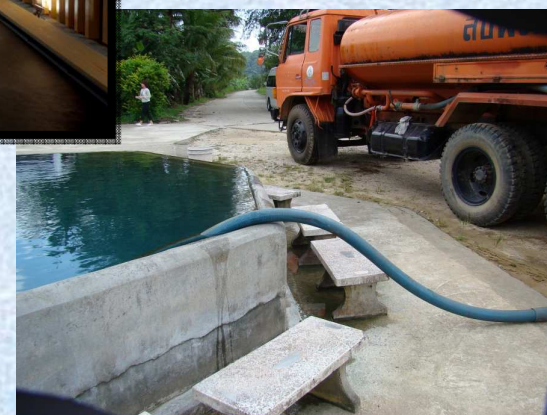
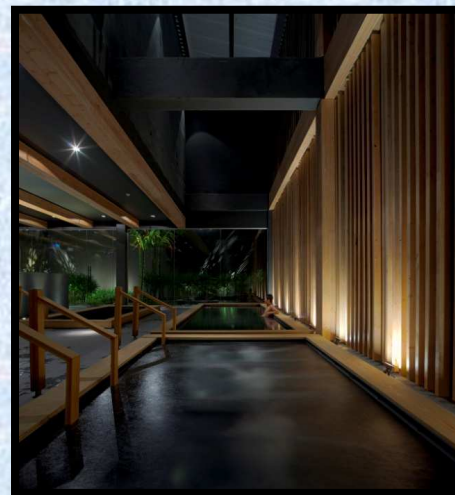


- 商工会議所に温泉部会がある
- 巷では世界3大良質泉の温泉といわれるが本当か
- 温泉の知識を得たい
- 温泉の利用法を知りたい
- もっと良い温泉施設を作りたい
- 温泉観光地としてもっと売り出したい
- 日本の協力を得たい

- 県はインフラを整備する意向はある
- 温泉知識のある客はバンコクからやってくる
- 観光地としての素材は温泉以外にも豊富
- 自然が豊富
- 隠れビーチリゾートにヨーロッパ人はやってくる

- ・ クリアーすべき問題点
 - ・ 地元民間企業の資金不足
- ・ アクセスが良くない
- ・ 観光地としての告知不足

バンコクに遂に温泉を利用した日本型 スーパー銭湯が登場 「湯の森」



温泉水はラノーンからの運び湯
日本人よりタイ人のお客の方が多い。

パンガー

ホットスプリング・ビーチリゾート&スパ



温泉利用のリゾートホテルが増えつつある。

メディカル・ウエルネスツーリズムの視点 から温泉利用を志向する

- ・ 1994年 バンヤンツリースパがオープン、
スパブームの開始
- ・ 1995年 チバソムがオープン、ウエルネススパの開始
- ・ 2001年 セント・カルロス病院が統合メディカルスパ
を開始
- ・ 2003年 タクシン政権によるメディカル・ウエルネス
ツーリズムのハブ宣言
- ・ 2013年 保健省・観光省・タイスパ協会が水・温泉の
積極的利用を宣言

タイは官民一体となり一旦動き始めると早い。



◆メディカルツーリズムの経済規模
2004年400億円、2012年1,000億円

◆メディカルツーリズムで選ばれるデスティ
ネーションの三大要素

コスト、先端医療、コミュニケーション

Cost saving

- Brazil: 25-40%
- Costa Rica: 40-65%
- India: 65-90%
- Korea: 30-45%
- Malaysia: 65-80%
- Mexico: 40-65%
- Singapore: 30-45%
- Taiwan: 40-55%
- Thailand: 50-70%
- Turkey: 50-65%

医療費のみではなく、
家族を含む滞在費の安さ。
資料の中には日本は入っていない。

High Level

世界基準の医療施設
JCI とは



Organization Accredited
by Joint Commission International

◆米国の医療施設を対象とした第三者評価機関Joint Commission（元JCAHO：1951年設立）の国際部門として1998年に設立された、国際非営利団体 Joint Commission Internationalの略称。

◆本部はシカゴにあり、ミラノ、ドバイ、シンガポールに支部がある。

世界中どこでも通用する基準や指標をもとにした、「患者安全」「感染管理」「医療の質」などに対する審査の妥当性や有効性が高く評価され、これまでに世界50カ国450の医療施設がJCIの認証を取得。

アジアではタイ、シンガポールやインドを筆頭に、台湾中国、韓国などの医療施設が積極的にJCI認証取得に向けて動いているのに対し、わが国でJCI認証を取得した病院は、亀田総合病院とNTT東日本関東病院、聖路加病院、**相澤病院**、聖隷浜松病院、の6施設のみ。（13年3月時）

タイは47病院

JCI sets Clinical Care Program Certification standards (CCPC)

No waiting lists

- ◆ 各国言語に対応したスタッフが充実
- ◆ 日本人スタッフ採用の病院は多い
- ◆ **Thailand's medical technology is state-of-the-art** 最先端医療技術
- ◆ 医療サービスの科目に
Holistic / Anti-Ageing, Medical & Wellness Spa がある。
その為の温泉の活用を模索している。

検討例

形式	医療サービス付き温泉リゾート
場所	チェンマイ県 サンカムペーン郡
敷地	9600平方メートル
経営	Sirivej Medical Co. Ltd. ラジャヴェーチェンマイ病院が母体

現在企画段階だが、タイにおける参考例がなくフィジビリティースタディーまでは進んでいない。
北タイ在住日本人が良く利用する病院

進行中の具体例

場所 チェンマイ県 チェンマイ市
Rarinjinda Wellness Spa Resort

- ◆アーユルヴェーダ医師が常駐しアジア
の伝統療法を導入
- ◆既存施設に温泉を導入し、温浴療法を
メニューに追加



場所：プーケット県パトン Rarinjinda Wellness Spa

- ◆敷地後方に温泉を導入し、本格的な温浴施設3階建を新たに建築
- ◆6000㎡規模を予定



◆ラリンジンダが先行出来る理由

- a. 日本の温泉・温浴文化を既に知る
- b. 経営陣の複数ファミリーの姉弟が日本留学経験
- c. マネジメントが度々日本を訪れ温浴を体験する
- d. 温泉導入にあたり複数回、温泉地や都心・住宅地の日帰り温泉を更に視察体験
- e. 日本の温浴事業者、設計会社に基本デザインを発注

◆検討課題

- a. 人工温泉にも着目
- b. 男女別温泉利用の大型浴槽を採用
- c. ターゲットをタイ人に限定せず
- d. 水着着用 of ハイドロプール、エンターテインメント性

運営中

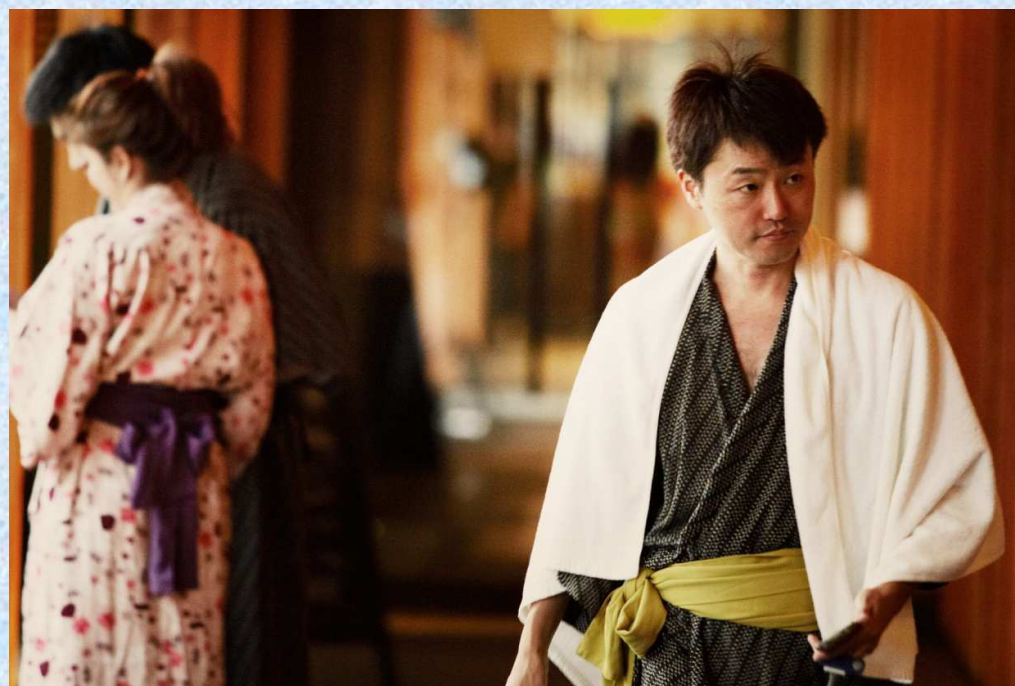
- 場所 バンコク市内
- Yunomori Onsen Spa
- 日本の温浴・温泉文化を紹介する貢献度は高い
- ラノン温泉の運び湯





- 素人が見よう見まねで手掛けた温泉利用の日本型温浴施設
- ビジネス的には成功。
- ターゲットマーケット：タイ人60%、日本人30%、その他外国人10%
- タイ人は日本文化の体験が出来ることを喜んでいる。
- しかし、ソフト・ハード共に問題は頻発気味。

- 徐々に温泉の話題と施設が出来始め、温泉利用の機運が生まれつつあり。



日本の協力のあり方

◆タイ一般人の習慣

- タイ人は温泉が身体に良いことは何となく理解はしている。しかし、具体的な効能・効果の知識は無い。
- 温浴習慣を持たないので温泉の利用法を知らない。
- 個室以外、裸での入浴はしない。
- 若い女性は人前では入浴しない。プールすら入らず水着を着ることも無い。

◆温泉利用の啓蒙活動が必要

- インバウンド効果による温泉文化の伝播
- 温泉の効能・効果を伝える
- タイ人の趣向に合わせた温浴文化を提案

ツーリズムにより温泉文化を伝える

- 日本入国者数 2012年 全体数 8,358,105人
- タイ人260,640人 伸び率79.8%
- 13年1-5月18.1万人のタイ人が訪日、前年同期比53%増
(最も期待されていた中国マーケット43.7人28%減と対照的)
- 7月1日より、タイ人の観光ビザは免除になった。
- 今後更に大勢のタイ人が日本にやってくる。
- 英語が出来る人が多い。
- 一般的にタイ人は常識のルールをわきまえ、旅行マナーが良い。他の客やその施設に迷惑になるようなことはしない。他文化に対してリスペクトする。
- 温泉観光地はタイマーケットに積極的になるべき
- タイ入国者数2012年、全体数 22,353,903人、日本人1,373,716人

タイの温泉ブームは日本に益をもたらすか

- 来日タイ人の増加に伴い、日本の温泉に対する認知度は上昇
- 親日度は高く、日本文化に対する興味は大、温泉にも興味は大
- タイ人客による温泉リゾートの活性化、温泉地では露天風呂付きの部屋に泊る
- ヘルスリゾート・メディカルスパのノウハウを逆輸入
- サービススタンダードのアップグレード
- 国際化

技術支援

- 温浴施設の設計者がいない。⇒ 日本の設計者の登場
- 温浴用の水処理・濾過機が無い。⇒ 日本からの輸出（源泉地ではかけ流しが一般的で運び湯の場合、今後運び湯が増えると思われる）
- 輸入してもメンテナンス出来る会社が無い。⇒ 日本企業のタイ進出

ソフト支援

- 温泉法導入
- 温泉活用法のアドバイス
- 温泉入浴指導員制導入
- 温泉（バルネオ）セラピスト養成

◆World Spa & Well-being Convention

今年のテーマは「ヒーリング・ウォーター」

- タイ政府協賛恒例のスパ会議・展示会 9月18－21日
- 過去アジアのスパは水（温泉）をあまり重要視してこなかったが、スパ本来の水に回帰し健康を考える。
- 18日・19日のコンベンションは水を科学し水の利用法を学習する。
- 21日は温泉事業起業家のためのワークショップ
- 午前、日本の講演者・パネラーを希望
- 午後、タイ政府各省庁を含むフォーラム
- これによりタイの温泉ブームは確実に始まる。
- 日本は傍観者で良いのだろうか？